

# 会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回上尾市学校給食運営委員会	
開催日時	令和6年5月22日(水) 午後1時30分～午後3時40分	
開催場所	上尾市役所 7階大会議室	
議長(委員長・会長)氏名	熊坂 由美子	
出席者(委員)氏名	萩谷 健、石田 賢一、小木曾 久美子、宮田 純生、勝 雄一、廣 美穂、新井 裕美、村上 未貴、石井 怜実、湯浅 裕利子、三枝 由希子、今村 恵一郎、高橋 直子、大谷 美穂、豊田 健介、福島 禎子、松本 慶多	
欠席者(委員)氏名	井上 耕平	
事務局	学校保健課 佐藤課長、長島主幹、深澤主任、花里主任 中学校給食共同調理場 荻原所長、棚澤副主幹	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	(1) 令和5年度小中学校給食実施結果について (2) 令和6年度小中学校給食実施計画について (3) 上尾市学校給食施設基本計画(素案)について	承認 承認 継続協議
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 5名
会議資料	別添	
<p>議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 6 年 7 月 12 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>熊坂由美子</u></p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
	<p>I 委嘱・任命</p>
瀧澤部長	1 委嘱書・任命書の交付
瀧澤部長	2 学校教育部長あいさつ
	3 委員及び職員の紹介
	(学校教育部長退席)
	II 第1回上尾市立小学校給食運営委員会
熊坂委員長	1 開会
熊坂委員長	2 委員長あいさつ
熊坂委員長	3 議事
	(1) <u>令和5年度小中学校給食実施結果について</u>
	[事務局より会議資料に基づき説明]
	(2) <u>令和6年度小中学校給食実施計画について</u>
	[事務局より会議資料に基づき説明]
	(3) <u>上尾市学校給食施設基本計画(素案)</u>
	[事務局より会議資料に基づき説明]
	〈主な質疑・意見〉
宮田委員	今後はセンター方式で進むということなのか。
事務局	結論としては、センター方式で進めていきたいと考えている。詳細な建物としてのイメージや建設地については、今後実施計画の様なもので示していくことになる。
大谷委員	センター方式の中でもセンター1カ所のデメリットとして、調理後2時間以内の喫食が難しいとされているが、対策はされているのか。デメリットの対策として、センターを2カ所や3カ所にするのだと思われるが、2カ所や3カ所で足りるかの検証は進めているか。
事務局	現在もセンター1カ所から配食しており、すべての学校で調理後2

	<p>時間以内の喫食ができないわけではないが、場所によっては、調理後 2 時間以内の喫食が難しい日もあると。今後、どのエリアがどのような場合に調理後 2 時間以内の喫食が守れないのかを詳細に検証し、最終的には、センター数や設置場所を決めていきたいと考えている。</p>
大谷委員	<p>上尾市は交通の便が良い地域であるため、混雑等の交通事情を考慮してよく検討してもらいたい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
大谷委員	<p>中学校は既にセンター方式であるが、建て替えは行うのか。</p>
事務局	<p>素案では、小・中学校共同で調理するセンターを複数カ所設置することとして考えている。</p>
大谷委員	<p>小学校部門と中学校部門で厨房施設を分けて考えるのか。</p>
事務局	<p>その点は、これから検討していくところである。他の自治体では、実際にそのように稼働している自治体があるため、それらを参考にしながら、良い給食提供ができるようにしていきたい。</p>
大谷委員	<p>献立が異なると作業導線も変わってくるため、導線の確保を考慮して検討した方が良い。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
石井委員	<p>現在、栄養教諭は市内に 11 名配置されており、各校で食育の活動を行っている。センター方式となった場合、栄養教諭の配置数が減少し、食育のために各校に行きにくくなることが想定される。このことについて、どのように考えているか。また、栄養教諭は各学校・各センターに何人配置されるのか。</p>
事務局	<p>県費栄養教諭の減員については、これまでの運営委員会でも心配されてきたところである。素案でも県費栄養教諭の減員について触れており、事務局としても心配を共有しているところである。一方、現在でも、県費の栄養職員が配置されていない学校には、市費の栄養職員を配置している。詳細はこれから詰めていくことではあるが、県費の栄養職員が減員した場合には、市費の栄養職員を増員することで、児童生徒に対する食育は維持できないかと考えている。</p>
石井委員	<p>素案に、栄養職員の人件費の試算が載っていない。</p>
事務局	<p>市費の栄養職員の人件費は加えていない。自校方式とセンター方式のどちらになった場合でも必要になる給食調理員の人件費をランニングコストとして見ている。</p>
湯浅委員	<p>検証では小学校と中学校を別々のセンターとしているが、結論では小学校と中学校を合わせたセンターということになっている。検証の段階から小学校と中学校を合わせたセンターとしないと全体を網羅</p>

事務局	<p>できる結果にならないのではないかと。</p> <p>センター3カ所の方式を採用した場合は、その通りであるため、検討していく。現在パブリックコメントの意見募集をしている。6月中旬に意見を取りまとめ、7月中旬に意見を反映させたものを改めて案として出す予定である。今回の意見は、そのものの一つとして承る。</p>
湯浅委員	<p>現在中学校のセンターでは、県費栄養教諭2名と市費栄養士2名の合計4名が配置されている。市費栄養士が配置されているおかげで、県費栄養教諭は授業や自校の行事に参加することが出来ている。自校以外の学校にも食育として出向くことがしやすくなるため、栄養士の配置数は、現状か現状以上に配置をしてもらいたい。また、配置する市費栄養士は会計年度任用職員ではなく、正規職員でお願いしたい。</p>
事務局	<p>予算にも関わるところであるため、明確な回答はできない。意見として承る。</p>
湯浅委員	<p>アレルギー対応室とあるが、品目などの対応範囲によって部屋数が変わるため、範囲を明示されないと検討しにくい。素案の検証では、センター&amp;サテライト方式の場合、代替食の発注はセンターで行うとあったが、現在のセンター&amp;サテライト方式では、主食と主菜はセンターで作製、副菜・汁物・デザートはサテライトで作っているため、別々に発注をかけている。サテライトで作っているものもセンターで発注となると、発注が複雑になるため、シミュレーションがしづらい。アレルギーの関係については、もう少し詰めてもらいたい。</p>
事務局	<p>意見として承る。</p>
大谷委員	<p>自校方式からセンター方式になる場合の衛生管理について、一元化により良くなると思われる反面、移送や保管の衛生状況が気になる場所である。夏場は40度を超えるような日もあり、食中毒も大規模になることが懸念される。エアコンがついている場所に保管ができるのか、滞在時間をどのくらいにするのかなどの管理も並行して必要になる。こういった移送と保管管理の視点も今後、検討する材料になるので、注意してほしい。</p>
事務局	<p>十分配慮して検討していく。</p>
村上委員	<p>センター方式（3カ所）というのは、3カ所で小学校分と中学校分をそれぞれ作るということか。</p>
事務局	<p>センター方式（3カ所）とは、市内に3つのセンターができるという意味合いである。それぞれの中にアレルギー対策室を持つというイメージを記載している。</p>
村上委員	<p>素案の検証では、小学校で必要な面積と中学校で必要な面積が別々に載っている。例えば、アレルギー対策室について、センター②では小学校33㎡、中学校17㎡となっているが、これは多い方に合わせるという意味合いなのか。それとも、それぞれ別々に作るということか。</p>

事務局	<p>それぞれ別で考えていても、合わせた人数分を作るということではないか。</p> <p>小学校と中学校を合わせての検証は、今後進めていくところであるが、各センターに一つ設置することを考えている</p> <p>4 その他・連絡事項</p>
事務局	<p>次回運営委員会の実施日は、令和6年10月23日（水）を予定している。都合により変更となる場合があるため、ご理解を願う。</p>
萩谷副委員長	<p>5 閉会あいさつ</p>